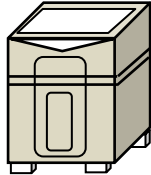
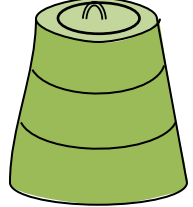
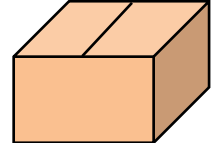


生ゴミ処理機の主な種類

種類	電気式【乾燥式・バイオ式】		コンポスト容器	ダンボールコンポスト
				
処理方法・特徴	<p>【乾燥式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミの水分を温風で乾燥させながら攪拌する。 ・温風で乾燥させるため培養基材(バイオチップ)が不必要。 ・処理時間2～5時間 	<p>【バイオ式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に微生物によって生ゴミを分解する。微生物が活動しやすいように一定温度を保つ。 ・専用の培養基材(バイオチップ)が必要な機種が多い。 ・処理時間4時間～1日程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・土の中の微生物の力で生ゴミを分解する。 ・水はけのよい地面を選び20～70センチ程度土を掘りその上に設置。 ・容器の大きさによって生ゴミを多く処理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンボール箱を利用した生ゴミ処理 ・ダンボールの中に土壌改良材ピートモス等を入れ土壌微生物の力で生ゴミを分解する。 ・資材をホームセンター等で購入でき手作りすることができる。 ・毎日の管理(攪拌等)が必要

ここがポイント！

発酵, 堆肥化されやすいもの	発酵, 堆肥化しにくいもの
野菜くず, 果物くず, 肉類, 魚類, ご飯, めん類, 茶がらなど一般的に人が食べられる食材。水切りをして大きな生ゴミは細かく切ること大切です。	骨類, 貝類, 梅干しなどの種など硬い物は分解に時間がかかる。また, 電気式の生ゴミ処理機に入れると容器内を傷つけ故障の原因になる。

